

**「訪問型家庭教育支援」  
パネルディスカッション  
コーディネーター 山野則子 氏**

**参考資料**

# 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成





# 「チームとしての学校」と「学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制」の関係(イメージ)

## 「チーム学校」の理念

- 必要な教職員や専門スタッフについては、種別に配置
- 多様な専門人材が責任を伴って学校に参画し、教員はより教育指導や生徒指導に注力
- 学校のマネジメントが組織的に行われる体制
- 「チームとしての学校」と地域との連携を強化

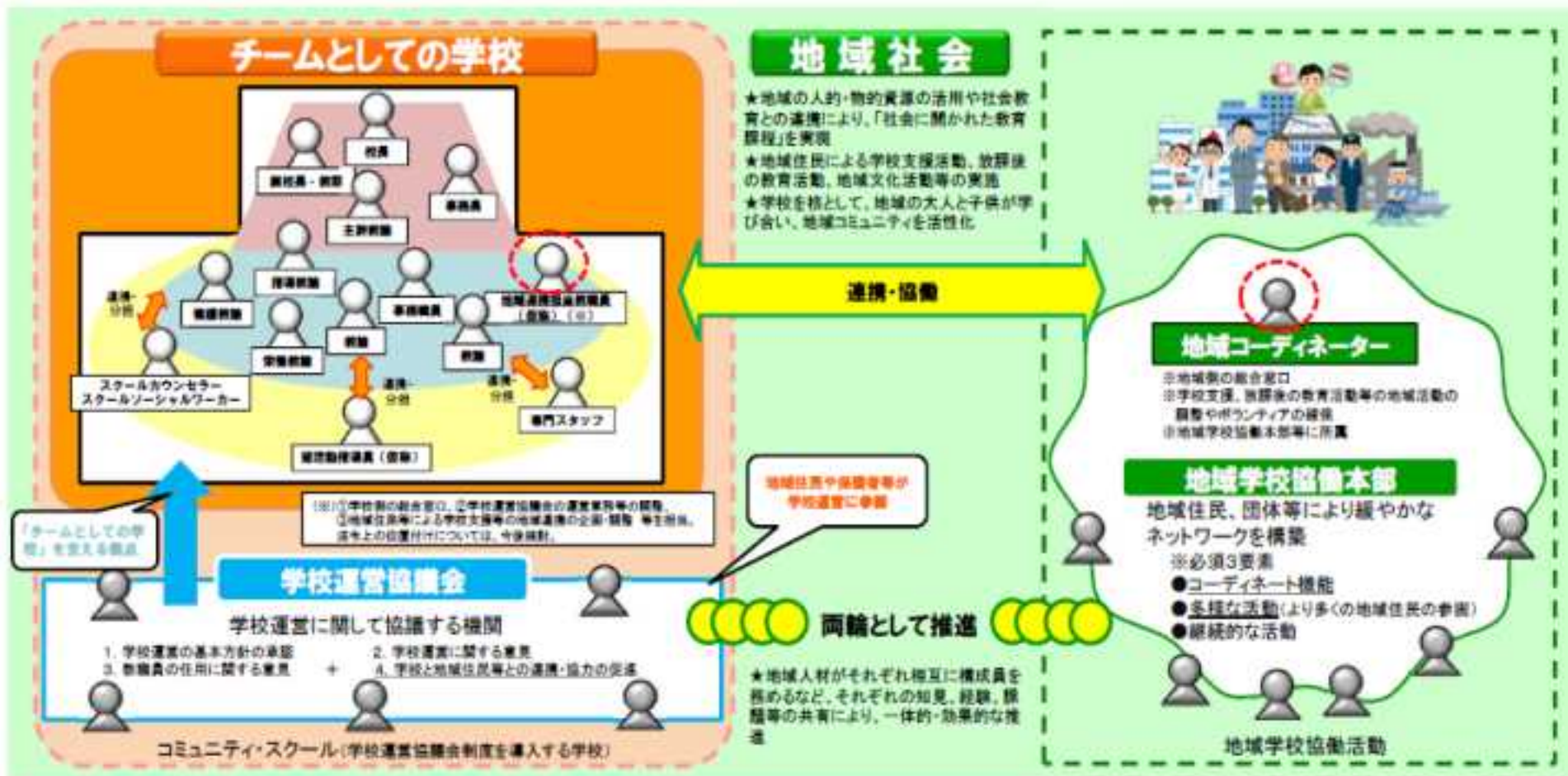


## 「学校と地域の連携・協働」の理念

- 学校と地域の「パートナーとしての連携・協働関係」への発展
- 地域とともにある学校への転換
- 子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
- 学校を核とした地域づくりの推進



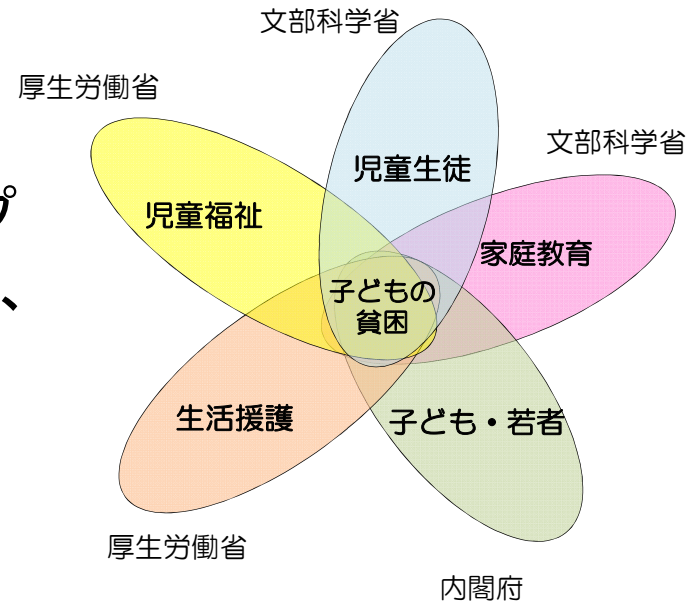
- ☑ 学校の教育力・組織力の向上
- ☑ 社会福祉かきりでの教育の実現
- ☑ 子供を軸に人々が参画・協働する社会の創造



☆「チームとしての学校」の範囲(中教審基本策より)  
「チームとしての学校」の範囲については、学校は、校長の監督の下、組織として責任ある教育を提供することが必要であることから、少なくとも校務分掌上、職務内容や権限等を明確に位置付けることができるなど、校長の指揮監督の下、責任を伴って教育活動に関わる者とするべきである。

## Ⅱ. 切れ目のない支援システムの構築 ＝効果的制度モデルの構築

- 「効果的なSSWer配置プログラム」の実施状況をレビューしながら、効率性評価を行う。プログラムの実現のために教育と福祉の狭間、社会的課題として現れる環境との狭間に着目した、**学校を拠点にした、切れ目のない支援システムの構築**について検討する。



- これには、子どもの貧困対策推進法や生活困窮者自立支援法などの法律や理論の検討を行った上で、効果的制度モデルとして提案を行う。このことは、「効果的なSSWer事業プログラム」の基盤強化となり、「効果的なSSWer事業プログラム」の社会実装の促進機能となる。「効果的なSSWer事業プログラム」を政策に反映した形で、このプログラムを含め切れ目のない支援システムを構築する。
- 9月26日企画(チラシ)



# エビデンスに基づく 効果的な スクールソーシャルワーク

現場で使える  
教育行政との協働プログラム

山野則子 [編著]

A5判/並製/240頁

●本体価格 2,600円(+税)

◆内容構成

1) 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50) 51) 52) 53) 54) 55) 56) 57) 58) 59) 60) 61) 62) 63) 64) 65) 66) 67) 68) 69) 70) 71) 72) 73) 74) 75) 76) 77) 78) 79) 80) 81) 82) 83) 84) 85) 86) 87) 88) 89) 90) 91) 92) 93) 94) 95) 96) 97) 98) 99) 100) 101) 102) 103) 104) 105) 106) 107) 108) 109) 110) 111) 112) 113) 114) 115) 116) 117) 118) 119) 120) 121) 122) 123) 124) 125) 126) 127) 128) 129) 130) 131) 132) 133) 134) 135) 136) 137) 138) 139) 140) 141) 142) 143) 144) 145) 146) 147) 148) 149) 150) 151) 152) 153) 154) 155) 156) 157) 158) 159) 160) 161) 162) 163) 164) 165) 166) 167) 168) 169) 170) 171) 172) 173) 174) 175) 176) 177) 178) 179) 180) 181) 182) 183) 184) 185) 186) 187) 188) 189) 190) 191) 192) 193) 194) 195) 196) 197) 198) 199) 200) 201) 202) 203) 204) 205) 206) 207) 208) 209) 210) 211) 212) 213) 214) 215) 216) 217) 218) 219) 220) 221) 222) 223) 224) 225) 226) 227) 228) 229) 230) 231) 232) 233) 234) 235) 236) 237) 238) 239) 240)

序 章 研究概要とプログラム評価

## 第1部 スクールソーシャルワークが求められる背景と意義

第1章 家庭と学校の現状

コラム 子どもをどう見るか—教育と福祉とをめぐって

第2章 スクールソーシャルワーク研究の動向

## 第2部 プログラムの作成・プログラム理論評価

第3章 プログラム理論の仮モデル作成

コラム 包括的SSW事業マニュアルに込める思い—第4章編者  
高野スズエカ/シムラウメ/の立場から

第4章 効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム  
に基づく全国調査の結果

◆編者紹介

山野則子 (やまの のりこ)

大阪府立大学教育福祉学専攻教授、専攻(人間福祉)  
主幹。著書に、『よくわかるSSW(スクールソーシャルワーク)』(共編著・ミネルヴァ書房・2012)、  
『子ども虐待を防止する学校ネットワーク』(共編著・ミネルヴァ書房・2013)など。

◆執筆者紹介

大島麗子(おおしま りよこ)/夏川望子(なつがわ のぞこ)/大友秀樹(おおとも ひでき)/野村健一(のむら けんいち)  
河野美智子(かわの みちこ)/藤川友紀(ふじがわ ともき)/横井亜子(よこい あき)

スクールソーシャルワーカーの活動をより実効性のあるものにするために、はじめて実証的研究の成果を取り入れた本書は、学校(教員)だけでなく教育委員会の関与・連携について取り上げた点で意義が大きい。子ども、学校、地域を守るために協働する専門職必携。

## 第3部 プログラムの実践的活用に向けた実践

第5章 実践家参加型ワークショップによるプログラム再構築

コラム 高野さんからメッセージ

- ① これまでの取組から育成研修へ
- ② プログラム運用への期待

第6章 「効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム」の試行

コラム 山口県での取組み

第7章 最終的なプログラム—完成モデル

第8章 総合考察

本とがら/花柳開助/効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの実践的活用と教育行政

◆本書の特色へ、このチラシに特約の上、ご注文ください。  
◆ご注文の際は、電話またはお申し込み書をお送りください。  
代金引寄せ対応しております。代金は配達の方に支払ってください。  
書局代(送料・消費税)に加え、送料として一律300円がかかります。

明石書店 TEL:03-5818-1171  
FAX:03-5818-1174  
〒110-0021 東京都千代田区神田5-9-5  
明石書店 110-0021 東京都千代田区神田5-9-5  
TEL:03-5818-1171 FAX:03-5818-1174

**エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク**  
現場で使える教育行政との協働プログラム 山野則子 [編著] ●本体価格 2,600円(+税)

発行所 TEL

〒

明石書店  
TEL 03-5818-1171  
FAX 03-5818-1174

無料 大阪府立大学21世紀科学研究機構「教育福祉研究センター」  
第4回キックオフセミナー



# すべての子どもを包括する支援システム: 学際的議論 ~「学校プラットフォーム」の意味とは~ 2015年9月26日(土)

10:00-12:00

効果的なスクールソーシャルワーカー事業プログラムの実施報告会  
各地の自治体より取組み報告

コメン: 文部科学省初等中等教育児童厚生係課長 坪田知広氏

13:00-17:30 ディスカッション(受付開始12:30)

基調講演1: 「福祉政治学の立場から」 中央大学教授 宮本太郎氏

基調講演2: 「教育行政学の立場から—国の教育政策や自治体の取組み動向—」

放送大学・東京大学名誉教授・中教審副会長 小川正人氏

討論: 文部科学省生涯学習政策局参事官 子供の貧困担当 大谷圭介氏

文部科学省初等中等教育児童厚生係課長 坪田知広氏

国立教育政策研究所総括研究官 中野 遼氏

東京大学大学院教授・学長補佐 松田憲示氏

コメント: 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課長 古川夏樹氏

進行: 長崎純心大学教授(元厚生労働省専門官・社協理事長長代理) 瀬谷有二氏

大阪府立大学スクールソーシャルワーク支援推進委員会委員長・教育福祉学専攻教授 山野則子

少年事件、居所不明問題、いじめ問題など事件が相次いでいる。その背景には貧困や児童虐待などの課題が強く影響している可能性を意識すべきであろう。子どもの問題の喫緊の課題に対し、平成26年夏に子供の貧困対策大綱が成立した。その内容を実施させ機能させるのはこれからである。例えば、その内容の1つにスクールソーシャルワークが明記され、5年後には中学校に1人の配置が示された。しかし、人を配置すればいいというものではない。機能するような仕組みをどう作っていくのか、教育と福祉の協働のあり方を明示された学校プラットフォームの意味は何なのか。なぜ学校なのか、日ごろ福祉の研究者と教育、社会学、社会学の研究者で議論することはさほど多くはない。



# 学校のプラットフォーム化

山野則子(2014改変)

- ★生活相談
- ★就労支援
- ★虐待相談等

## 関係機関の支援ネットワーク

児童相談所、福祉事務所、発達障害者センター、ハローワーク、病院、サポステ 等

## 生活困窮者自立相談支援機関

## 教育委員会

## 地域

## 困窮家庭

病気 貧困 孤立

背景

表面化

いじめ 学力不振 非行 不登校 虐待

予防!

子ども

幼稚園

保育所

連携

家庭教育支援拠点

学習支援

放課後教室

学校

地域活動の拠点

CD

地域学校協働本部

学校運営協議会

コミュニティスクール

SSW

専門家  
教員

SC

チーム  
学校

プラットフォーム

学校: 問題発見、マネジメント

SSW: 事例対応、機関調整、資源活用